

古代エジプト王ラムセス 2 世の孫娘の遺骨を同定する 貴族なのに縄文人の歯列と摩耗

国立科学博物館名誉研究員

日本歯科大学客員教授

馬場悠男先生



プロフィール: 馬場悠男(ばば ひさお)

1945 年、東京生まれ神奈川育ち。国立科学博物館名誉研究員。東京大学生物学科卒。専門はジャワ原人化石の調査など、人類の進化と日本人の形成過程。NHK スペシャル「人類誕生」など多くの科学番組を監修している。編著訳書は、『NHK スペシャル「人類誕生」』、『人類の祖先はヨーロッパで進化した』など。1945 年、東京生まれ神奈川育ち。国立科学博物館名誉研究員。座間市教育委員。日本学術会議連携会員。元日本人類学会会長。東京大学生物学科卒。獨協医科大学解剖学助教授を経て、1988 年から国立科学博物館主任研究官。96 年から同人類研究部長および東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授を兼任。2009 年定年退職。専門はジャワ原人化石の調査など、人類の進化と日本人の形成過程。国立科学博物館(東京上野)の特別展に数多く携わるかたわら、NHK スペシャル「人類誕生」、「生命大躍進」、「日本人はるかな旅」など多くの科学番組を監修している。編著訳書は、『NHK スペシャル「人類誕生」』、『人類の祖先はヨーロッパで進化した』、『私たちはどこから来たのか 人類 700 万年史』、『人類進化大全』など。



ヒトの白眼はなぜ目立つのか? 顔には深いわけがある

食生活の東西比較 咀嚼器官と歯の咬耗の違い

東南アジアと日本では、稲作の長江文明発祥以来、雨が豊富で、水をたくさん使う食生活。米を軟らかく炊いて食べる。副菜も軟らかい魚と野菜。箸で食べるので、食いちぎらない。全体に歯が減らない。身分の高い人々は特に歯が減らない。顔が細長い。顎は非常に華奢である。

エジプトおよび西アジアでは、麦作のメソポタミア文明発祥以来、雨が少なく乾燥しているので、水をできるだけ少なく利用する食生活。小麦を挽いて粉にし、少量の水を混ぜて窯で焼く。砂混じりのパンで、噛むとシャリシャリし、歯が減る。

パンのほかに、豆を食べる。魚も少し。肉は上流階級しか食えない。身分の上下、老若男女を問わず、歯がよく減る。パンや硬い食物を食いちぎるので、切端咬合になる。たとえ顔面が細長くても、顎はしっかりしている。

日本では、弥生時代以降、軟らかい食物の影響で、咬耗が少なくなり、切端(鉗子状)咬合は激減し、鋏状咬合、さらには歯列が乱れるなど、急速に顎顔面構造が華奢になっていった。

イシスネフェルトのような古代エジプト貴族の農耕に基づく食生活は、咀嚼負荷という点では、採集狩猟に基づく縄文人の食生活と似ていたということだろう。その後、同じ食生活が最近まで長く続いた。

地域、気候環境、時代、貧富、身分などによる食生活の違い、およびそれによって影響される顎顔面構造の違いを理解することによって、また意外な類似も理解することによって、現代日本人の食生活と顎顔面構造を改善するヒントとなれば幸いである。